

# 平久橋

橋梁形式：一径間ワーレン鋼構橋  
 架設年次：昭和2年8月  
 所在地：江東区牡丹三丁目から  
 木場一丁目間平久川に架かる  
 橋長：32.0m  
 幅員：13.4m  
 橋名由来：平久川にかけられた橋であり、  
 旧町名・平久町にあったことからこの名が  
 つけられた。



現在の様子



現在の様子

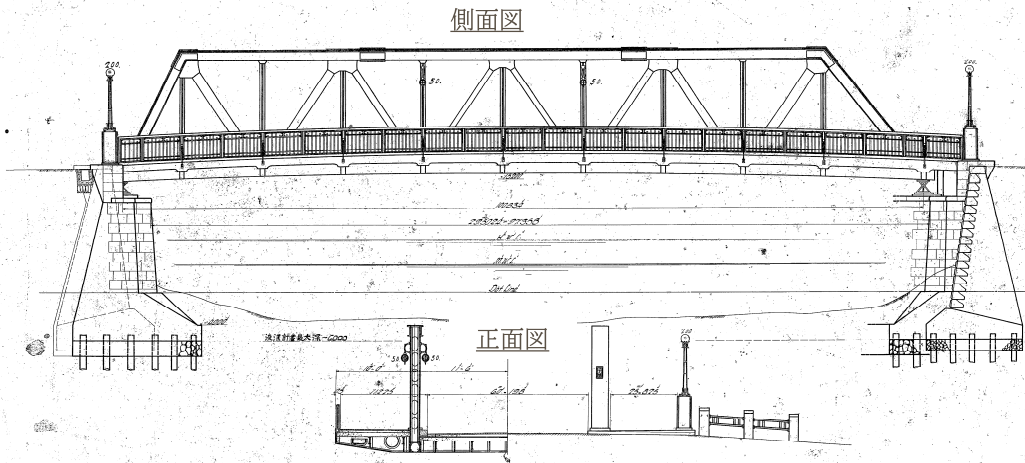


撮影年不明

平久橋は、大正12年に発生した関東大震災の復興事業の一環として架けられた「震災復興橋梁」の一つです。

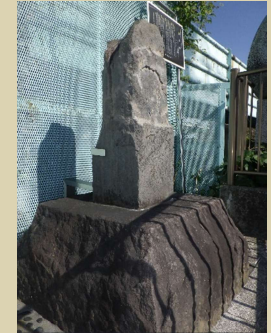
トラスとは、まっすぐな直線部材で構成された骨組構造で、主構造にトラスを用いた橋梁をトラス橋と呼びます。

ワーレントラス（トラス=構）は、トラスの一種で、斜材の傾斜の方向を交互に変えたトラスのことです。James Warrenが発案したことから、この名称で呼ばれています。



## 平久橋の波除碑（なみよけのひ）について

寛政3年（1791）、深川洲崎一带に襲来した高潮により、付近の家屋がごとごとく流されて多数の死者・行方不明者が出ました。幕府はこの災害を重視し、洲崎弁天社から西方一带を買い上げて空地としました。その広さは東西285間余、南北30間余、総坪数5467坪余（約1万8千㎡）に及びます。そして空地の両端の北側地点に、波除碑を2基建立しました。この碑は、平久橋の橋台敷の西詰めと、洲崎神社境内に残っていて、東京都指定有形文化財となっています。



## 説明板設置工事について

令和5年に関東大震災から100年を迎えるにあたり、過去の記憶や震災復興橋梁の歴史を広く区民に継承し、防災意識の啓発を図るために震災復興橋梁の説明看板を設置しました。

### 震災復興橋梁について

大正12年（1923年）9月1日の午前11時58分、神奈川県西部（または相模湾北西部）を震源とするマグニチュード7.9の大地震（大正関東地震）が発生しました。

震災前、東京市の橋の大部分は本橋で、多くの橋が被害を受けました。震災直後から約5年（1928年）にかけて、復興事業の一環として架けられた橋梁は「震災復興橋梁」と呼ばれています。

東京市に架けられた「震災復興橋梁」の数は、8年間で約400橋で、江東区域にも多くの「震災復興橋梁」が架けられました。

一部の橋は、改修や撤去を兼ねながら、現在も都市の交通を支えています。

平久橋の概元  
 橋梁形式：一径間ワーレン鋼構橋  
 橋長：32.0m  
 橋幅員：13.4m  
 架設年月：昭和2年8月

江東区